

平成 22 年度 大学院入学式告辞

大学院への入学おめでとう。香川大学は新たに 356 名の大学院生を迎えることになりました。このなかには、かなりの数の外国人留学生と社会人が含まれています。香川大学はあなたたちを心から歓迎します。

あなたたちは、修士課程、博士課程、博士前期課程、博士後期課程、専門職学位課程の院生であり、所属する課程も多様であります。また、学士課程や修士課程からの進学者や社会人であったり、外国人留学生の人もあり、さまざまな志向性と専門性、属性を持っています。したがって、大学院課程において達成すべき目標や目的も多様であります。高度な専門知識を持った技術者や教育者をめざす人もいます。地域社会や企業とのリーダーをめざす人もいます。また、弁護士などの法曹をめざし、きわめて明確な目的を持って勉学に励む人もいます。もちろん、生命科学や工学、環境科学などの研究者をめざす人も多数いるはずで、それぞれの目標に向かって努力を継続し、自分自身で納得できる成果をあげられることを期待しております。また、大学院課程に在籍している間に、さまざまな実践と学問を通して、豊かで社会からも尊敬される社会人に成長させることを強く願っております。

20 世紀は自然克服型の社会をめざし、また消費を推奨するような資源消費型の生活を推し進めてきました。その結果、資源問題、人口問題、環境問題に代表されるような地球規模の大きな課題を背負い込んでいることは、世界の共通認識となっています。したがって、持続可能な社会を構築することが 21 世紀における人類社会や日本社会に求められております。このような認識のもとに、日本の科学者コミュニティーを代表する日本学術会議では 10 - 20 年先の学術及び学術推進政策に対する見解を「日本の展望 - 学術からの提言 2010」として取りまとめ、明日の総会に諮られることになっております。その提言のなかでは、「21 世紀の世界において学術研究が立ち向かう課題」として 4 つをあげています。それらは「人類の生存基盤の再構築」、「人間と人間の関係の再構築」、「人間と科学技術の関係の再構築」、「知の再構築」の 4 課題であります。

最後の「知の再構築」は大学における人材養成の在り方に関するものであり、学術や科学・技術の将来の方向性を示すものではありません。最初の3つの課題である人類の生存基盤の再構築、人間と人間の関係の再構築、人間と科学技術の関係の再構築からの課題を、私なりにより具体的に言い換えますと次のようになります。1つ目は、地球環境問題であり、2つ目は個人の安全システム、3つ目はアジア、4つ目は個人と国家、5つ目は科学技術の進展に伴うリスク管理、6つ目は急激に進展している情報技術に関するものであります。

これまでに述べてきたような分野や領域における学術研究への取組が、人類社会の発展のみならず、地球の明るい未来のために貢献すると考えられます。ただ、21世紀の人類社会の課題解決のためには複数の科学分野の一体的取組が不可欠であり、さらに学術と社会との協調関係が必要であることを忘れてはならないと思います。

これからの学術研究の重要な課題になるであろう地球環境問題をはじめ、個人の安全システムやアジア、個人と国家、リスク管理、情報技術などの課題に、研究や技術という立場だけでなく、行政や企業の立場から、君たちは関わって行くことになると思われま。新しい視点を持って課題へ挑戦し、あなたたち自身が日本における知的活動・創造力の担い手になることをめざしてもらいたいと思います。私たちはあなたたちのチャレンジに大いに期待しております。

あなたたちは最先端の研究課題にこれから取り組んでいくことと思います。それは、ライフサイエンスやナノテクノロジー、情報通信、環境、地域開発の分野であったりするでしょう。大学院においては、最先端の課題にあなたたち自身の力で取り組むことが重要であります。常に考えてほしいのはあなたたちが取り組んでいる研究課題の位置付けであります。自分の研究課題が、例えば生命科学の中でどのような役割を果たしているのか、また工学の中でどのような役割を果たしているのか、自然科学全体に対してどのような影響を与えることができるのか、さらには人類の幸せのためにどのように役立とうとしているの

かを常に考えてください。それも自分ひとりだけではなく、周りの仲間とディスカッションすることが大切であります。そのような日常的活動があなたたちの研究の幅を広げ、あなたたち自身の将来の発展可能性を大きくすることにつながることは間違いありません。

また、最先端の研究課題に取り組み、そこで得られる知識や研究成果に満足してはいけません。君たちの将来にとってもっとも大切なのは、最先端の研究に関する知識ではなく、研究に取り組んでいる過程で見つかる新たな課題の発見であり、その課題への解析であり、研究成果を取りまとめ、公表する過程で養われるさまざまな能力であります。それらは探求力や解析力、企画力、表現力などと言われるものであります。私は、最先端の研究課題はそれらの能力をみがき、修得するための「場」と考えています。

あなたたちが香川大学での大学院生活を通して、豊かな教養と高度な専門知識を備えた研究者や高度な技術者だけでなく、社会のあらゆる分野で活躍できる有為な人材に育ってくれることを願っています。

平成 22 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古